

JSPSボン研究連絡センター 2013 年度第 3 四半期活動報告 (2013 年 10 月～12 月)

< 目 次 >

1 2013 年 10 月～12 月の主な活動	…p 1
(1)研究・留学プログラムの説明会 “Forschung und Studium in Japan“を開催	
(2)ジュニア・フォーラムを開催	
(3)ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会主催「会員による会員の招待」を開催	
(4)JSPS Abend を開催	
(5)スイス連邦工科大学チューリヒ校他と京都大学が主催する“Swiss-Kyoto Symposium” に出席	
(6)フンボルト財団フェローネットワーキング会議に出席	
2 2014 年 1 月以降の主な行事予定	…p 6
3 センター長雑感	…p 6

1 2013 年 10 月～12 月の主な活動

(1)研究・留学プログラムの説明会 “Forschung und Studium in Japan“を開催

日時: 11 月 15 日(金) 9:00-12:30

場所: Freiburg Institute for Advanced Studies (FRIAS)、フライブルク市

2013 年 11 月 15 日、フライブルク大学の Freiburg Institute for Advanced Studies (FRIAS)において、研究・留学プログラムの説明会 “Forschung und Studium in Japan“を開催した。JSPS ボンセンターが欧州に拠点を置く大学等関係機関に参加を呼びかけて、日本での研究、留学に関心のあるドイツの学生と研究者を対象として毎年開催しているものである。フライブルク大学の学生、教職員を中心に 40 名程度の来場があった。

JSPS ボン研究連絡センター小平センター長の開会挨拶と全体説明、フライブルク大学の Gunther Neuhaus 副学長のご挨拶に続き、在ドイツ日本国大使館の増子参事官より、日本留学の概要を紹介するDVDの上映、および文部科学省や日本学生支援機構等の奨学金制度等の概要説明が行われた。その後、ボン研究連絡センター大川副センター長よりフェローシップを中心とする JSPS 事業概要を紹介し、日本の大学等の各機関が留学プログラム等の紹介を行った。コーヒーブレイクを挟み、2 名の JSPS 元フェローの体験発表と JSPS ドイツ同窓会の紹介が行われた。

会場の外には資料コーナーを設け、来場した学生等はコーヒープレイクや説明終了後に各機関の担当者から説明を受けていた。熱心な参加者が多く、説明会終了後も学生と各機関担当者と懇談が続く場面が見られた。



小平センター長の開会挨拶と全体説明



フライブルク大学 Gunther Neuhaus 副学長のご挨拶



JSPSプログラムの説明



ブースの様子

(2)ジュニア・フォーラムを開催

日時: 11 月 16 日(土) 14:00-18:30

場所: Central Hotel Freiburg、フライブルク市

2013 年 11 月 16 日、今夏の JSPS サマープログラム参加者、及び外国人特別研究員として日本に滞在した研究者を招待したジュニア・フォーラムをドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会(JSPS ドイツ同窓会)とともに開催した。

小平センター長の挨拶に続いて、JSPS ドイツ同窓会員でもある 3 名の中堅・シニア研究者が、それぞれのキャリアパスについて説明を行った。その後、14 名の JSPS サマープログラム参加者がパワーポイント等の資料を使って経験談を発表し、続けて外国人特別研究員からも経験談が語られた。その後、JSPS ドイツ同窓会による同窓会の紹介と加入案内、本センターより今後これら若手研究者からの申請が期待されるフェローシップ等の JSPS の事業紹介が行われた。

JSPS サマープログラム参加者にとって再会を果たす場ともなり、親睦を深めつつ活発な意見交換が行われた。



先輩研究者の発表



JSPS 事業経験者の発表



参加者の集合写真



会場の様子

(3)ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会主催「会員による会員の招待」を開催

日時: 11 月 15 日(金) 14:00-18:00、11 月 16 日(土) 8:45-13:00

場所: Freiburg Institute for Advanced Studies (FRIAS) 、フライブルク市

11 月 15 日午前中に行われた研究・留学プログラムの説明会 “Forschung und Studium in Japan” に引き続いて、午後よりドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会 (German JSPS Club) 主催の「会員のための会員の招待」が開催された。例年秋に開催しているもので、ボンセンターが開催案内・当日の受付などの支援を行った。

今年はフライブルクで研究を行っている同窓会員 C. Becker-Asano 氏と B. Hildebrandt 氏が、招待する側の会員として、計画策定から実施まで中心的な役割を果たした。水谷章在ミュンヘン日本総領事他の来賓による開会挨拶の後、ロボットや太陽電池などをテーマとして各研究者による講演が行われた。翌日 16 日はフライブルク大学の博物館 “Uniseum” でガイドツアーが行われた。



講演の様子



会場の様子

(4) JSPS Abend を開催

日時: 2013 年 10 月 7 日 (月)

場所: Hotel Bristol、ボン市

JSPS Abend (JSPS アーベント、JSPS のタベ) は例年、ボン研究連絡センターの主催により、毎年秋にドイツの学術振興機関、大学等の長をはじめとする関係者を招待し、日本学術振興会ならびにボン研究連絡センターの活動報告を行うとともに、更なる交流・協力の輪を広げることが目的として開催している。今回も同様に、10 月 7 日にボンで開催した。

本会の浅島誠理事による開会挨拶と本会の活動報告に続き、ドイツ大学長会議 (HRK) の Prof. Dr. Horst Hippler 会長、DAAD の Dr. Dorothea Rüland 事務局長、フンボルト財団の Dr. Enno Aufderheide 事務局長、在ドイツ日本大使館の宮下孝之公使にご挨拶を賜り、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会の Prof. Dr. Heinrich Menkhaus 会長に乾杯のご挨拶を頂いた。

続いて浅島理事の学術講演 “Control of Organogenesis and Regeneration in Vertebrate Development” が行われた。約 80 名の参加者は互いに情報交換を行い、親交を深める機会となった。



日本学術振興会 浅島理事の学術講演



ドイツ大学長会議(HRK) Hippler 会長のご挨拶

(5) スイス連邦工科大学チューリヒ校他と京都大学が主催する“Swiss-Kyoto Symposium”に出席

日時: 11 月 21 日(木)～11 月 22 日(金)

場所: スイス連邦工科大学チューリヒ校、スイス・チューリヒ市

スイス連邦工科大学チューリヒ校(ETHZ)において、同校とローザンヌ校(EPFL)、チューリヒ大学(UZH)、京都大学の 4 大学の主催により開催された“Swiss-Kyoto Symposium”に、JSPS ボン研究連絡センター小平センター長と高橋国際協力員が出席した。生物学、物理学、人工知能など幅広い内容であった。

21 日午前、ETHZ の Prof. Ralph Eichler 学長の司会により開会式が行われ、各大学の学長・総長、副学長および在スイス日本大使が挨拶を行い、ETHZ と京都大学の間で交流協定の署名式が行われた。続いて各大学の概要説明と基調講演が行われた。基調講演では京都大学および ETHZ・UZH 共同研究施設より各 1 名の教員が、それぞれのテーマに関する発表を行った。

21 日午後と 22 日は専門分野に分かれてパラレルセッションが行われ、小平センター長は Astrophysics と Existentialismus heute のセッションに参加、高橋国際協力員は AI and Robotics のセッションに参加した。21 日の午後、日本・スイス両国の研究支援の制度と状況について、小平センター長とスイス科学財団(SNSF)の Jean-Luc Barras 氏が発表を行った。22 日夕方の総括セッションで、各セッションの概要報告と今後の共同研究の可能性について報告が行われたあと、閉会となった。

(6) フンボルト財団フェローネットワークング会議に出席

11 月 20 日にアレクサンダー・フォン・フンボルト財団主催ネットワークミーティングがイェナで開催された。アレクサンダー・フォン・フンボルト財団(以下 AvH)はドイツ国内外の優秀な研究者を国際的に支援しており、奨学生および AvH の賞を授与された研究者からなる「フンボルティアン」のネットワーク作りに特に力を入れている。今回のネットワークミーティングは、外国へ行く前もしくは外国から帰ってきたドイツ人奨学生およびドイツで研究を行っている外国人奨学生が招待され、約 200 名が参加した。ボン研究連絡センターから徳野国際協力員が参加した。

会場であるフリードリヒ・シラー大学イエナの Dicke 学長の挨拶で始まり、続いて AvH 事務局長代理の Hesse 氏から AvH の紹介が行われた。現在インターネット上にフンボルティアンのデータベースを構築中であり 2014 年から運用を開始する予定で、フンボルティアンであれば誰でもそのデータベースを通じて世界中のフンボルティアンとコンタクトを取れるようになるとのことである。その後、同大学 Deckert 教授による学術講演が行われた。同教授は、2001 年に AvH のソフィア・コワレフスカヤ賞を受賞している。

コーヒープレイクをはさみ、国別に分けられたグループディスカッションに移り、グループ C (バングラデシュ、インド、インドネシア、日本、韓国、フィリピン、タイ) のディスカッションに徳野国際協力員が参加し、情報提供や助言を行った。奨学生 18 名に AvH スタッフ 3 名が加わり、ドイツでの研究や生活についてディスカッションが行われた。グループの中には、元 JSPS 外国人特別研究員 (バングラデシュ) や、早稲田大学で修士号を取得した研究者 (バングラデシュ)、日本で博士号を取得した研究者 (フィリピン)、元 JSPS 海外特別研究員 (日本) が参加していた。

2 2014 年 1 月以降の主な行事予定

1 月 15 日 (水) 日独学術コロキウム “German-Japanese Colloquium on Frontiers of
～1 月 17 日 (金) Science” (於ハイデルベルク)

3 センター長雑感

ドイツでは比較的暖かな年末を迎えている。キリスト教民主・社会主義同盟(CDU/CSU)とドイツ社会民主党(SPD)との大連立政権発足に目処がつき、クリスマス景気も上々のようだ。この一年を振り返ると、日本の大学の国際化努力が急に力強くなってきたように感じられるのは、ボン・センターの我々だけだろうか。とにかく国策として特段の予算が投入され、個々の大学の国際展開活動が活発化し、その支援業務が増えてきたのは事実である。同時に、「内なる国際化」も進むように願ってやまない。

日本の大学の世界展開力強化事業で「外国の優れた研究者を招く」という声を時々耳にする。来てくれれば大学の教育研究の力にもなるだろうが、どうすれば来てくれるのか。教育研究の力になってもらうには 1-2 週間位の短期滞在の飾り物ではなく、半年から 1 年くらい、できれば移籍して来てもらいたい。

招かれる研究者の身になって考えてみると、自分の大学・研究所や自国内、または近隣諸国にも魅力の有る教育研究施設が有るのではないかと。日本が地理的・文化的に離れているなら、日本の大学はそれらの施設以上の魅力を持たねばならない。研究者は好奇心に富んでいるからエキゾシズムも魅力の一つかも知れないが、それが来日の大きな理由だとすれば、やはり飾り物的客員ではないだろうか。

教育研究施設に来る客員研究者にとって何が魅力だろうか。立派な施設や処遇も魅力には違いないが、それでは未来に向けての大学の世界展開力強化には繋がらない。教育研究者にとっての大きな魅力は、優れた若い人達と議論ができ一緒に研究できることではないだろうか。逆に、多くの優れた若い研究者が居るからこそ、外からも優れた研究者を招聘しなければならないのだろう。外から優れた研究者を招いて優れた若い人達を育ててもらおうという甘い考えは、明治時代の外国人教師招聘と根は同じではないか。ま



た、腰を落ち着けて力になってもらうには、教育研究環境だけではなく、大学・研究所外の社会生活環境もそれなりに整っていないといけない。

現在の日本は明治の頃とは違う。世界も違う。長期的な視点でのインフラ構築が重要だろう。自分の大学で、まずは選りすぐりの学生達、選りすぐりの若い研究者・教授陣を結集して見てはどうか。「どうです、此の人たちと一緒に教育研究をして見ませんか」と言える組織を学内に構築してはどうか。WPI 事業にはそうした側面も有るはずだが、どれほど大学の世界展開力を引き出し、将来に繋がる若い人材を育ててきたか、そろそろ分かる頃だろう。

ぼんぼん時計第 42 号

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)

Phone +49(0)228-375050 Fax +49(0)228-957777

www.jsps-bonn.de